佛教大学 2025（令和 7）年度
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム
自己点検・評価報告書

2026（令和 8）年 10 月

佛教大学教育開発推進機構
教育開発推進センター 情報教育推進部門

本学では、今後のデジタル社会において、日常の生活、仕事等の場で、数理・データサイエンス・AI を使いこなすことができる基礎的素養を身につけることを目的として、数理・データサイエンス・AI 教育に関するプログラム（以下、「プログラム」という）を実施しています。本プログラムは、2025（令和 7）年度に、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されました。

この度、2025（令和 7）年度の実施プログラムについて、以下のとおり、自己点検・評価を実施しました。

１．自己点検・評価の実施・実施体制について

本学における教育課程の編成・運営、教育開発・改善に関する事業は、教育推進機構が担っている。また、同機構における事業を円滑かつ効果的に実施するため、同機構内に教育開発推進センターを設置している。同センターには、教育開発推進部門と情報教育推進部門の 2 つの部門があり、本プログラムの自己点検・評価については、情報教育推進部門が担っている。

情報教育推進部門で実施した自己点検・評価結果は、教育開発推進センター運営会議を経て、教育推進機構会議に上程し、本学の教学部門としての自己点検・評価を行うこととしている。その後、本学の内部質保証体制の手続きに則り、佛教大学・自己点検評価委員会で全学的視点により検証がなされたのち、佛教大学質保証推進委員会において、メタ評価を行っている。

また、外部からの視点として「外部評価委員会」における意見等を聴取し、自己点検・評価に反映させている。

２．自己点検・評価の内容について

文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の申請書に示されている評価の視点を踏まえて、点検・評価項目を設定し、実施した。

３．自己点検・評価の判定

自己点検・評価の判定は、次の 4 段階で実施した。

S：極めて良好な状態。他大学に誇れる水準にある。

A：良好な状態。おおむね適切な水準にある。

B：軽度な問題点がある。目的の実現に向けてさらなる努力が求められる。

C：重度な問題がある。目的の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

４．自己点検・評価

（１）学内からの視点

①プログラムの履修・修得状況

［評価項目］該当科目をどの程度の学生が履修・修得しているか

［指　　標］該当科目の履修者数、修得者数

［現状と点検・分析］

2025 年度のプログラム履修状況は次のとおりである。

■コンピュータ・リテラシー

「コンピュータ・リテラシー」は保健医療技術学部を除く全学部 1 年生の必修科目としており、1 年生の春学期に 45 クラスを開講している。2025 年度は、1,512 名が履修登録しており、単位修得者数は、1,369 名（91.4%）となっている。

【コンピュータ・リテラシー】［単位：人］

学部	登録者数	修得者数
仏教学部	66	50
文学部	253	211
歴史学部	179	166
教育学部	312	291
社会学部	313	283
社会福祉学部	242	222
保健医療技術学部	147	146
計（※認定除く）	1,512	1,369

■情報・メディアと社会

「情報・メディアと社会」は全学教養科目における選択科目として位置づけ、全学部の学生が履修登録できるようになっている。2025 年度は、大学全体で 54 名が履修登録しており、単位修得者は 28 名（51.9%）となっている。学部別の履修登録状況をみると、登録者の半数が社会学部の学生となっており、次いで、教育学部、歴史学部と続いている。

【情報・メディアと社会】　［単位：人］

学部	登録者数	修得者数
仏教学部	0	0
文学部	4	2
歴史学部	8	2
教育学部	9	5
社会学部	30	18
社会福祉学部	3	1
保健医療技術学部	0	0
計	54	28

以上のことから、履修・修得状況について、「情報・メディアと社会」の履修学生数および修得率が低いことが課題となっている。

なお、2026（令和 8）年度からは全学的な教育課程の改定により、当該プログラムにおいても、新カリキュラムで実施し、さらなる充実を目指すこととしている。

［自己評価］　B

②学修成果

［評価項目］履修学生が各授業科目に設定されている目標を達成できているか

［指　　標］該当科目の授業アンケート結果（設問 3-（1））

該当科目の成績評価の状況

［現状と点検・分析］

授業アンケートにおける設問 3－(1)（シラバスに記載されている到達目標が達成できた）について、大いにそう思う・そう思うの回答合計は、「コンピュータ・リテラシー」は 85.1%、「情報・メディアと社会」は、83.4%であり、両科目とも 80%以上の学生が到達目標を達成できたと回答しており、学修成果を実感していると評価できる。

加えて、当該科目の成績評価の状況は次のとおりである。

【コンピュータ・リテラシー」履修登録者 1,512 名の成績評価の状況】

評価	人数 ［単位：人］	（割合）	判 定	
S	311	（20.6%）	合　格 1,369 人 （91.4%）	S （22.7%）
A	564	（37.3%）		A （41.2%）
B	320	（21.2%）		B （23.4%）
C	174	（11.5%）		C （12.7%）
D	99	（6.5%）	不合格	－
N	32	（2.1%）	評価対象外	－
X	12	（0.8%）	未受験	－

【「情報・メディアと社会」履修登録者 54 名の成績評価の状況】

評価	人数 ［単位：人］	（割合）	判 定	
S	5	（9.3%）	合　格 28 人 （51.9%）	S （17.9%）
A	6	（11.1%）		A （21.4%）
B	7	（13.0%）		B （25.0%）
C	10	（18.5%）		C （35.7%）
D	14	（25.9%）	不合格	－
N	－	－	評価対象外	－
X	12	（22.2%）	未受験	－

「コンピュータ・リテラシー」は、履修登録者の 91.4%が合格しており、合格者のうち、S評価が 22.7%、A評価が 41.2%となっており、概ね学修成果が達成できていると評価できる。

一方で、「情報・メディアと社会」は、履修登録者の 51.9%しか合格しておらず、合格者のうちC評価が 35.7%を占めており、今後、授業内容等の検証が必要である。また、授業アンケートにおける到達目標の達成度では、83.4%が達成できたと回答しているが、この結果と成績評価との検証が必要である。

［自己評価］　A

③学生アンケート等を通じた授業内容の理解度

［評価項目］該当科目が学生が理解しやすい内容となっているか

［指　　標］該当科目の授業アンケート結果（設問 2-(1)～2-（3））

［現状と点検・分析］

授業アンケートにおける設問 2－(1)（教員の話し方や説明の仕方、資料等はわかりやすかった）について、大いにそう思う・そう思うの回答合計は、「コンピュータ・リテラシー」は 79.0%、「情報・メディアと社会」は、77.8%である。

同じく、設問 2－(2)（シラバス（授業のテーマや目的等）に即した授業内容だった）について、大いにそう思う・そう思うの回答合計は、「コンピュータ・リテラシー」は 87.5%、「情報・メディアと社会」は、94.5%である。

さらに、設問 2－(3)（教科書やプリント等の教材が適切に使用されていた）について、大いにそう思う・そう思うの回答合計は、「コンピュータ・リテラシー」は 82.1%、「情報・メディアと社会」は、83.3%である。

以上のことから、学生は当該授業において概ね理解しやすい工夫がなされていると感じており、上述の単位の修得状況や到達目標の達成度から見ても、当該科目の内容が理解しやすかったと評価できる。一方で、直接的に学生の理解度を測る指標となっていないため、指標については今後検討の余地があると言える。

［自己評価］　A

④学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

［評価項目］プログラム修了生にとって他の学生に推奨できる内容となっているか（当該科目の満足度）

［指　　標］該当科目の授業アンケート結果（設問 3（2)・ 3（4））

［現状と点検・分析］

授業アンケートにおける設問 3－(2)（自分にとって有益な考え方・発想が身についた）について、大いにそう思う・そう思うの回答合計は、「コンピュータ・リテラシー」は 86.3%、「情報・メディアと社会」は、83.3%である。

同じく、設問 3－(4)（意義のあるものであった）について、大いにそう思う・そう思うの回答合計は、「コンピュータ・リテラシー」は 87.8%、「情報・メディアと社会」は、88.8%である。

以上のことから、当該授業が有益であり意義があったと感じている履修学生が 90%近いことから、他の学生への推奨度について評価できると考えられる。

なお、他の学生への推奨度を直接はかる指標となっていないため、今後検討の余地があると言える。

［自己評価］　A

⑤全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

［評価項目］本学が目標として設定する履修率に対する状況

［指　　標］当該科目の履修者数、履修者の増加を図る取り組みの状況

［現状と点検・分析］

2025 年度においては、履修率向上に向けた具体的な取り組みを実施するには至らなかった。そのため、上述のとおり「コンピュータ・リテラシー」は必修科目としているため１年生全員（保健医療技術学部除く）が履修することになっているが、選択科目としている「情報・メディアと社会」の履修者が少なく、今後の課題と認識している。

なお、今後の計画としては、2026 年度からの新カリキュラムで実施する必修科目「ICT リテラシー」において、プログラムの有効性等を伝達したり、オープン・バッジを発行したりするなど、履修を促すための取り組みを計画している。あわせて、大学としての履修者数の目標値等を設定する予定としている。

［自己評価］　C

（２）学外からの視点

①教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

［評価項目］プログラム修了者がどのような進路選択をしているか。また、プログラムで身につけた力をどのように活用できているか。

［指　　標］プログラム修了者の進路・就職先と就職先での評価（※データ取得方法要検討）

［現状と点検・分析］

2025 年度に本プログラムが認定されたばかりであり、進路が決定しているプログラム修了者がいないため、当該項目について現時点で評価することはできない。今後、修了者を輩出していくにあたって、当該項目を評価するための指標について検討を進めていくこととしている。

［自己評価］　－（評価不能）

②産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

［評価項目］プログラムの内容・手法が自治体や産業界等が求める学生の学修成果を獲得できるものとなっているか

［指　　標］学部評価委員による評価、意見等

［現況と点検・分析］

本学における外部評価委員会において、当該プログラムについて意見聴取を行った。

その結果、まずは教員の AI リテラシーレベルの向上が必要不可欠であること、学生に対しては、さらに AI リテラシーを向上させるための教育展開

を強化する必要があること、産官学協働の観点からもAIを活用した教育を実施して欲しい等の意見を頂戴した。

これらを踏まえ、概ね教育プログラムの内容や手法については適切であると評価できる一方で、急速に進展する生成AIへのさらなる対応が求められている。

いただいた意見を真摯にうけとめ、生成AIに関する取り組みを強化すべく、「教育におけるICT化の状況調査」実施し、改めて教員のAIを含めたICTリテラシーの現状を把握したうえで、研修会等の実施によりリテラシー向上に努める。また、学生に対しては、新カリキュラムにおける検証とあわせて、生成AIに関する教育の充実に向けて検討を進める。

［自己評価］　A

５．評価結果の総括（改善計画等）

上記の自己点検・評価に加え、その他の視点として、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること等を踏まえ、自己点検・評価の総括を行う。

本プログラムは、2025年度に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されたばかりであるが、今回の自己点検・評価により、履修率、修得率の向上に関しての課題が明らかとなった。これらの課題改善のため、学生への周知方法に関する具体的検討に着手しており、順次できることから実施していく予定としている。また、本プログラムの修了者に対して、オープン・バッジを発行すべく準備を進めている。

さらに、今回学修成果に関して、授業アンケートにおける学生の回答状況と、成績評価の現状とに一部乖離が見られた。今後、当該授業科目の内容について検証を進め、授業内容の改善に向けた取り組みを進めていく。

なお、2026年度から全学的な教育課程の改定が行われた。本プログラムについてもより効果的に実施することを企図して改定を行ったため、引き続き、毎年度の自己点検・評価を実施し、改善・向上を図っていく。

また、プログラムを構成する、個々の授業については、授業アンケートやシラバス点検等の結果を踏まえて、内容と水準の維持・向上に努めより分かりやすい授業とするとともに、学ぶ楽しさや、学ぶ意義を理解させるべく改善・向上に向けて取り組んでいく。

加えて、外部評価委員会からの意見を踏まえ、生成AIへの対応を強化すべく取り組みを推進していく。

以上の改善・向上に向けた取り組みは、教育開発推進センター情報教育推進部門を中心として推進していく。

以上